

G-1 被服製作可能度の研究(才3報) — 養護学校(低知能者)における刺繡学習を手がかりとして — 仙名白百合短大 田山仁子 ○鈴木良子

目的 養護学校高等部(女子)における刺しゅう学習指導法について、才1報、才2報は技法の種類がどの程度可能であるかを発表した。今回は指導時におけるクラス編成の諸問題について報告する。1 IQ別クラス編成(重度・中度・軽度)による指導 2 学年単位による指導(中度・軽度)を比較検討した。

方法 1 被験者 (1) IQ別クラスは各学年30名 (2) 学年別クラスは昭和46年度入学者14名 2 実験材料 (1) 布地 木綿布(白綿モス) (2) 糸 フランス刺しゅう糸 赤(色番700)オリパス25番3本どり (3) 針 メリケン針4番 2年以上は材質を3種類使用した。3 技法および図案 1年次は基礎刺し、2年次は応用技法、3年次は実物作品、図案は独特なものを考案し使用した。

結果 1の場合 あたえられたものに満足し、クラスの雰囲気はおだやかに競争意識に欠け、従って作品の仕上がりにも反映して低調に感じられた。2の場合 クラスの雰囲気は活気があり、競争意識がみられる反面いたわり合う心もみうけられた。作品にもよいものを作ろうという意欲があらわれていた。欠点として少し雑になる傾向もみられたが、このクラスの場合は概して好結果が得られた。